

5月号では、1単位時間のゴール(Bと判断する状況)を具体的に設定することについてお伝えしました。

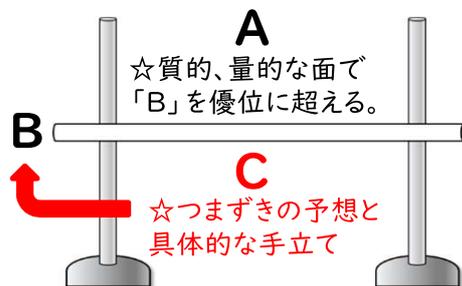
今月は、設定したゴールへ向けて、全ての子供たちが学びを進めることができるよう、展開の充実についてお伝えします。Cの様相の子供に対して、Bの基準を下げるのではなく、つまずきの予想と具体的な手立てを行い、Bの様相へと高めることが必要です。

B規準を高跳びのバーに例えた学習評価のイメージ

参考:「学びの文脈」明治図書 榊山敏郎著

※指導事項を教材(題材)に合わせて  
評価規準→評価基準

「B」の高さ(難度)とは、目標を実現した子供の姿



**子供のつまずきを見抜く目と具体的な支援につなげる力を養うことが大切!**

やってみよう!

**子供の反応(つまずき)の予想と具体的な手立てを考える!!**

- ・問題や発問に対する子供の反応を予想しましょう。
- ・望ましい姿だけでなく、つまずきの様相や「C努力を要する状況」の姿も想定しましょう。
- ・学習活動を改善するための手がかりをアドバイスできるようにしましょう。



(例)2年生「かけ算」 本時目標:基準量が後に示された問題を、かけ算の意味を基に式に表し解決する。  
問題:おかしのはこが3こあります。1つのはこには、おかしが5こずつ入っています。おかしはぜんぶで何こありますか。

### 子供の反応を予想

#### 《C1の様相》



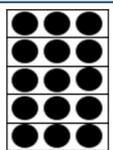
3個の5つ分だから、式は3×5

・かけ算の意味が理解できていない。  
・一つ分の大きさと幾つ分が捉えられていない。

#### 《C2の様相》



式は、5×3で、図もかいてみたよ。

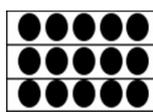


・立式はできているが、一つ分の大きさと幾つ分が捉えられていない。  
・式と図を関連付けて考えられていない。

#### 《Bの様相》



式は、5×3で、図をかいてみたよ。



・一つ分の大きさと幾つ分を適切に捉え、式と図に表すことができている。

### 具体的な手立て

#### ※CをBに高めるための手立て

1個にお菓子が5個入っている絵を見せ、図に表現させることで、一つ分の大きさが5であることに気付かせる。

#### ※CをBに高めるための手立て

かけ算の式の意味から、一つ分の数が5であることを確認し、かいた図が場面の数量と違うことに気付かせる。

#### ※BをAに高めるための手立て

ノートに説明の言葉を書かせ、式と図を関連付けて説明できるようにする。

☆答えに至る過程において「子供がどう思考し、どこでどうつまずくか」を子ども目線に立って具体的にすることで、子供の様相が「見える」ようになります。  
☆子供の姿が「見える」と、個々の学習状況に応じた指導につながり、子供たちが今以上に力を発揮できるようになります。

机間指導で子どもの様相を見取り、展開の充実につなげる際に参考となるお役立ち情報もぜひご覧ください



「効果的な机間指導」 「効果的な机間指導②」 「学ぶべきことを焦点化」